

読書活動参考資料 2 絵本の読み聞かせ

子どもたちに「読み聞かせ」をするときに、大切にしてほしいこと

○「読み聞かせ」によって育まれるもの

字の読めない幼い子どもたちは、大人が本を読み聞かせることではじめて、本の世界を楽しむことができるようになります。

読み聞かせは、子どもたちにとって、活字を声にかえるということだけではなく、絵本や物語を声に出して読んでもらうことで、人間の声の持つあたたかさ、言葉を耳で聞く心地よさ、言葉のリズムの楽しさ、絵が醸し出す物語の世界の豊かさなどを、子どもたちは心から味わい、本を読む楽しみを経験しているのです。

○絵本を選ぶとき

(1) 絵本を見る目を養っておくこと

よい絵本というものについての知識や感性を普段から養っておくことが大切です。そのためには、多くの子どもたちに愛されて、世代を超えて読みつがれている絵本に数多くふれて、読んでおきたいものです。出版から25年以上経っても、今なお出版され続けているロングセラーかどうかということが、すぐれた絵本の目安のひとつになります。

新しい絵本が読み聞かせに向いているかどうかを考える時にも、すぐれた絵本と読み比べてみましょう。

(2) テーマや題材が子どもに理解でき、共感できること

- ・主人公と一体化することができる
- ・子どもの身近なものに関連がある
- ・あたたかみと安心感のある

(3) 字は読まずに、絵を追うだけでお話のすじがたどれること

- ・絵本は絵と文字のふたつの言葉で語られている

(4) 絵と文のバランスがいいもの

- ・物語の展開と場面の展開が一致している

(5) 文章が簡潔で楽しいもの

- ・文章を声に出して読んだとき、心地よいリズムを持っている

○読み聞かせの方法

(1) 子どもたちに声がしっかりと届くこと

- ・黙読ではなく、何度も声に出して読んでみましょう。
- ・心をこめて、ていねいに読みましょう。
- ・物語の流れにのって読みましょう。
- ・読み手が心から絵本の世界を楽しんで読みましょう。

(2) 絵をしっかりと見せること

- ・絵本は持ちやすいほうの手でしっかりと持ちます。ページをめくるときは、ページの端に手をかけておき、子どもたちが物語に集中し、十分に楽しめるようにスムーズにめくってください。